

# 「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム・第2弾」(中間案)に対する パブリックコメント(意見募集)の実施結果概要

## 1 意見募集期間

令和元年10月9日(水)から令和元年11月7日(木)まで

## 2 意見の募集結果

(1) 意見提出者数 7名

(2) 意見数 67件

(3) ご意見に対する対応

「意見の概要と対応状況」のとおり

(4) 対応状況

対応区分		内容	件数
①	反映する	■最終案に意見や提案内容を反映させていただくもの	10件
②	反映済	■意見や提案内容がすでに反映されているもの	2件
③	参考にする	■最終案には取り入れないが、今後の取組に意見や提案内容を参考にさせていただくもの	19件
④	反映又は参考にするのが困難	■県の考え方や施策の取組方向等と異なるもの ■事業主体が県以外のもの ■法令などで規定されており、県として実施できないもの	1件
⑤	その他	■質問や感想など意見以外のもの(①～④には該当しないもの)	35件

## 意見の概要と対応状況

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
1	全般	事業者と地域の方との協働が出来たらと思う。県民一人ひとりに意識を持ってもらうためにも、従業員の方と地域での共同作業は有効だと思う。	⑤ (その他)	/
2	全般	アクションプログラムの県民大会やフォーラムに参加した方は、意識をもって活動をしてもらえるようになったと感じている。各地区の町民会議の場などでも伝えられたらと思う。	⑤ (その他)	/
3	全般	啓発行事もマンネリ化気味だったが、アクションプログラムが始まって、県民大会などに参加した防犯委員長さんから、「ベストを着て活動してみたい」「防犯カメラをつけたい」など防犯に前向きな声が聞こえるようになった。 とても良いプログラムなので、是非継続してもらいたい。	③ (参考)	アクションプログラムをきっかけにアクションにつながった団体や地域を複数確認しています。 今後も、さまざまな活動事例やアイデア等の横展開を図るとともに、地域の自主的な防犯活動等を促進することとしています。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
4	全般	実際にアクションプログラムを参考にする地域の方がもっと読みやすくするために、概要をまとめたようなものもあれば良い。ポイントなどをまとめた資料をつくり、そこに、詳しくはアクションプログラムを見ていただくようにアナウンスすればもっと分かりやすいのではないかな。	③ (参考)	より多くの県民にアクションプログラムの浸透と理解促進を図るため、アクションプログラムの冊子(本冊)とは別に分かりやすい概要版を作成することを考えています。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
5	全般	非常に良くまとめられている。	⑤ (その他)	/

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
6	全般	<p>地味な活動になるが、「我が家の防犯対策」などの出前講座や、現役世代の集まる機会に、「子供を守る大人の防犯講座」などを開催し、防犯意識の啓発を行えないか。</p> <p>また、この講座を各地の自主防犯団体の活動状況の発表の場にし、広報活動などの支援をしていただくよう、働きかけてはどうか。</p>	③ (参考)	<p>県では、「防犯活動をはじめたい」「地域住民の防犯意識を高めたい」といった地域からの養成に応じて出前講座を実施しています。</p> <p>市町においても、出前講座や会議等の場を活用し、自主防犯団体の事例発表等の機会を提供しているところがあります。</p> <p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
7	全般	<p>一年に一度くらい、各署の署長が自主防を訪問し、激励とお労いをさせていただきたい。</p>	⑤ (その他)	
8	第1章 2. 前期を振り返って	<p>三重県民は、サミットの有無にかかわらず、一人一人がそれぞれの思いで防犯アクションに取り組んでいる。アクションプログラム第二弾ではもうサミットに触れる必要は無い。</p>	④ (困難)	<p>サミット時に官民一体でテロ対策等を展開した結果、気運が高まったことは地域における防犯の取組にとって重要な資産(レガシー)となっています。</p> <p>この資産をプログラム第2弾にも引き継ぎ、県内各地にアクションを広げていくことで、より安全で安心な三重につなげられると考えています。</p> <p>ご理解ください。</p>
9	第1章 2. 前期を振り返って	<p>「子ども・女性・高齢者が被害者となる犯罪をはじめとする」という文言が、成人男性の軽視のようで、成人男性として三重県に対して不安になる。</p>	⑤ (その他)	<p>子ども・女性・高齢者に対する犯罪が耳目を集めているので例示しています。全ての県民の犯罪等への不安を払拭することがアクションプログラムの目的です。</p>
10	第1章 2. 前期を振り返って	<p>地域ぐるみで子どもを見守ってしようと防ぎようがないことを事例に、「被害者にも加害者にもならないように教訓としていかなければなりません」としてはどうか。</p>	③ (参考)	<p>安全安心なまちづくりのためには、地域ぐるみの見守りは重要と考えます。</p> <p>見守られる側(子ども)の安全確保だけでなく、見守る側の身の安全についても留意が必要と考えます。</p> <p>こうした事例を教訓に、改めて安全安心な地域のあり方を考えていくことも重要だと考えています。</p> <p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
11	第1章 3. プログラムの「キャッチフレーズ」	アイデアを集めアクションを広げるために、具体的な方策について、例えば、市町ごとに地域リーダーを活用し、「安全安心推進委員会または実行委員会(仮称)」などを結成し、具体化し実行するための議論ができないか。	③ (参考)	県では、地域の防犯活動等をけん引するリーダーの養成およびフォローアップに取り組むとともに、市町に対し、リーダーが地域で活躍できるよう、リーダーとの積極的な連携を呼びかけています。 今後は、リーダーの全市町(29市町)への配置をめざし、県内地域の防犯力の底上げや、ネットワークの活性化など、更にアクションを広げていきたいと考えています。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
12	第1章 3. プログラムの「キャッチフレーズ」	地域の企業や商店を参画させる手段を考えられないか。防犯カメラ等の設置にあたり、壁面取り付けや企業の駐車場照明の電柱を拝借し、その電源にかかる費用を負担していただくなど、何からでも参加していただけるのではないか。	③ (参考)	県内の安全安心の実現に向けては、県民のみならず、地域の企業や商店を含む「事業者」にもアクションを広げていくことが重要だと考えます。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
13	第2章 2. 県民の皆さんの意識	参加は都合の良いときに自由参加とする方針が重要である。防犯ボランティアを長続きさせる条件でもある。	⑤ (その他)	
14	第2章 2. 県民の皆さんの意識	信号機のない横断歩道での停止率の向上が急務である。47都道府県ワースト1は屈辱。2018年1.4%から3.4%に向上したが、他の県も向上しており、取締り強化が必要。	⑤ (その他)	引き続き、警察等と連携して、横断歩道での停止率向上のための取組を図っていくこととしています。
15	第2章 2. 県民の皆さんの意識	男性に対する犯罪の不安についてアンケートを取らないのは何故か。	⑤ (その他)	子ども・女性・高齢者が、特に犯罪を行おうとする者から狙われやすく、犯罪被害等に遭いやすい傾向があることから、子ども・女性・高齢者に対する犯罪の不安の調査項目を設定しました。 なお、本アンケートは男性を含めた県内在住の満18歳以上の方を対象に実施しています。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
16	第2章 2. 県民の皆さんの意識	子育ては「ながら」見守りの参加経験にはカウントされないのか。	⑤ (その他)	子育て自体が、「ながら」見守りとは言えませんが、子育ての一環である行動(散歩、買い物)等をしながら見守り活動を行うことは、ながら「見守り」にあてはまると考えます。
17	第2章 2. 県民の皆さんの意識	「県内の交通ルールの遵守や自動車等の運転マナー」について、悪い(「とても悪い」・「悪い」・「どちらかと言えば悪い」の合計)の割合を併記するべきだ。	① (反映)	ご指摘のとおり、「悪い」と感じる人の割合も併記しました。
18	第2章 2. 県民の皆さんの意識	「大人だけでなく、子どもや若者の」としてしまうと、老人たちが若者を大人扱いしていない惨状を、行政が黙認あるいは追認してしまうことになる。この記述はやめたほうが良い。	③ (参考)	防犯ボランティアや地域の見守りの現場で活躍する方の多くが60歳以上です。高齢化が進展する中において、地域の連携を深めるには、小学生・中学生・高校生・大学生などを含めた連携を考えていく必要があるという趣旨で委員から頂いた意見です。 ご意見のようなお考えがあることも、今後の参考とさせていただきます。
19	第3章 1. めざす姿	パトロール隊と自治会との連携が重要である。	⑤ (その他)	
20	第3章 1. めざす姿	隣接市町村とのホットライン形成・連携が必要である。犯罪発生時の迅速な対応、情報共有化が必要である。	③ (参考)	犯罪や事故の発生に市町の境界はなく、隣接市町の連携が課題となります。 警察等と協力連携しながら、市町の境界を越えて、見守りやパトロール活動を行っている地域もあり、こうした事例を他地域に紹介しているところです。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
21	第3章 1. めざす姿	成人男性を「など」扱いするな。オヤジ狩りやリーマン狩りと言った成人男性を標的とした強盗が相次いでいたことがあったのを忘れたのか。意識を向けるべきなのは、まず三重県だ。三重県に意識が足りないのだ。	⑤ (その他)	犯罪被害に遭いやすいため、地域の中で意識を向ける対象として、「高齢者・女性・子どもなど」と例示しています。ご理解ください。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
22	第3章 1. めざす姿	「・・・交通死亡事故のように子どもが犠牲となる事故」としてしまっ ては、東池袋の母親に失礼で、か つ、御遺族の父親に顔向けできな いだろう。そういう三重県の配慮 不足にヒヤツとする。	⑤ (その他)	子どもが犠牲となった事故を教訓に、 同じような犠牲者を出さないため、特に ドライバー側の意識づくりの大切さにつ いて記載しています。
23	第3章 1. めざす姿	「若者(大学生等)」という言葉 は、等が悪用されてしまうため、 絶対にやめよ。学生等(大学、短 期大学、高等専門学校、各種専 門学校等を含む)のほうが良い。	③ (参考)	防犯ボランティアや、地域の防犯活動 の現場で活躍する多くが60歳以上で す。そんな中、大学生や高校生のボラ ンティア、学生以外の若い力や柔軟な 発想による活動も数多く確認されてい ます。 学生だけではなく、高校生から社会人 までを含む言葉として、「若者」は一 般的に広く認知され、地域の防犯活動 の現場でも多く使われていると考 えております。 ご意見のようなお考えがあることも、 今後の参考とさせていただきます。
24	第3章 1. めざす姿	「防犯活動等」の等も悪用される だけになるからやめよ。自治会の 雑務を防犯活動の一環として悪 用し、大学生等に押し付ける事 例が見られた瞬間に、自発的な希 望者がもう二度と出てこなくなる からだ。	③ (参考)	県内でも、大学生等の自発的な防犯 活動等が数多く展開されています。 この場合の防犯活動等の等には交 通安全活動や環境美化活動などを 含むものと考えます。 ご意見のようなお考えがあること も、今後の参考とさせていただきます。
25	第3章 1. めざす姿	「防犯パトロールや指導」の指導 とは何か。指導されるべきでない 者を指導する老人が出る危険性 は無いのか。	⑤ (その他)	防犯ボランティアの活動内容の1つ に、「防犯指導」が挙げられ、これ には子ども達への注意喚起や自転 車の盗難防止指導などが含まれ ます。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
26	第3章 1. めざす姿	「若者の手を借りたい」と言う人々にとっての若者とは、大学生等という意味か。非高齢者ではないのか。	⑤ (その他)	防犯ボランティアの方々から「若者の手を借りたい」と聞くことが多くあります。 この場合は、概ね高校生から社会人までを含むものだと考えます。
27	第3章 1. めざす姿	犯罪者が嫌がる地域の雰囲気、犯罪者がリスクだと思う地域の雰囲気、あるいは、犯罪者が逮捕されやすいと思う地域の雰囲気をつくれれば良い。	② (反映済)	基本方針の「環境づくり」に記載のとおり、犯罪者が嫌がる地域の雰囲気づくりが重要と考えています。
28	第3章 2. 基本目標	「県民及び県外関係者の皆さん」で十分である。「県民や事業者をはじめとする」としてしまうと、事業者がやることで私に関係のないことだと思いついてしまう人間が出てきてしまう。	③ (参考)	このプログラムでは、県民を「県民」・「事業者」の2つに分け、立場や環境も違う双方が期待される役割に応じた行動(アクション)をおこし、そのアクションを広げていくことをめざしています。 ご指摘のような思い込みを生じさせないように、県民・事業者ともに重要なアクションの担い手であることを明確にした普及啓発に努めます。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
29	第3章 3. 重点テーマ	重点テーマからも三重県が成人男性には特に注力しないことがわかる。いつまで三重県は成人男性を軽視し続けるつもりなのか。	⑤ (その他)	6つの重点テーマは、近年の犯罪情勢や、県民の皆さんの意識等を踏まえ、特に注力すべき喫緊の課題として設定したものです。
30	第3章 4. プログラムの全体像～イメージ～	活動指標が全ておかしい。 地域リーダーが既に配置された市町であろうとも、新たに別の自治会から選出されるのを歓迎するべきだ。 子ども・女性・高齢者が犯罪から守られていると感じる県民の割合は、他県の悲惨な事例が報道された途端に、県内がどれだけ安全であろうと激減する。 近年懸念される犯罪等への活動指標が毎年度変わるようでは、経年変化をつかめない。 交通事故死のほうは基本目標に含まれているのだから、活動指標は飲酒運転のほうをゼロに目指すが良い。	③ (参考)	活動指標は、各重点テーマの進捗を測るうえでの目安として設定しています。 ご指摘の各テーマの活動指標については、有識者や県民代表、警察、関係機関等からなる「推進会議」でもご議論いただき、今後、進捗管理を行っていくうえで、それぞれ、適切な指標だと考えています。 今後、同会議において、この指標をもとに毎年度の進捗状況の共有や改善策の検討、どのような推進方法や進捗管理が適切かなども含めて、継続して議論していくこととしています。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
31	第3章 5. プログラムの 進め方	市役所や関係機関において、地区の防犯ボランティア団体の実態を把握しきれていない。また、支援をしたくても予算も少なく、足踏み状態。 せめて、関係者が集まり、意見交換を行う場の充実が必要である。	③ (参考)	現行アクションプログラムの推進においては、県民・事業者、市町、警察等関係者が意見交換を行う場としての「座談会」を県内全地区(18警察署)で開催しました。 来年度は、アクションプログラム第2弾に基づき、市町との連携強化を図るとともに、市町に対し地域の実情に応じた取組の実施を働きかけていく予定です。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
32	第3章 5. プログラムの 進め方	改善策を講じるのはプランである。チェックした結果として改善策を試してみるのがアクションである。改善策を講じるだけではアクションとは呼べない。試しに実行してみるのがアクションである。	⑤ (その他)	「改善策を講じる」には、チェックした後に、試すことや実際に行動(アクション)に移すことも含まれると考えています。
33	第3章 5. プログラムの 進め方	15年前の動きは三重県らしさが発揮されたのではない。県立学校のボランティア結成は確かにサミットが契機とはなっていたが、それが即ちサミットのレガシーであるというのは早計だ。サミットによる予算不足によって全ての横断歩道の補修も出来ない三重県にサミットのレガシーなど存在しない。歩行者の安全・安心を奪っているのは予算が厳しいからと放置を正当化する三重県である。	⑤ (その他)	15年前、全国的に防犯ボランティアの結成が活発化したことは、あくまで経緯として記載しています。 サミット時に官民一体でテロ対策等を展開した結果、気運が高まったこと、サミット開催後に、高校生のボランティアが立ち上がったこと、更にサミットから数年たってからも高校生ボランティアの結成が確認されていることなど、これらはサミットという貴重な機会を経験した、三重県だからこそその重要な資産(レガシー)であり、今後も引き継いでいきたいと考えています。
34	第4章 1. 地域の防犯力を 向上させる	防犯パトロールにより地域住民の防犯に対する意識改革が進む取り組みが必要。(例えばパトロール時の声掛け、訪問など)	⑤ (その他)	県内では、近年、防犯ボランティアの結成が進み、平成30年末現在で671団体が活躍しています。 こうした自主的なパトロールや声掛け運動等が活発化し、多くの県民が目の当たりにすることも、地域住民の防犯に対する意識改革につながると考えています。
35	第4章 1. 地域の防犯力を 向上させる	人間をなど扱いするな。高齢者・女性・子どもなど、となど扱いされた成人男性の気持ちを全く考えもしないのが三重県である。成人男性は守られないのか。支え合いと言っておきながら支えさせるだけか。誰一人取り残さないと言っておきながら、取り残し続けるのが三重県だ。	⑤ (その他)	犯罪被害に遭いやすいため、地域の中で意識を向ける対象として、「高齢者・女性・子どもなど」と例示しています。ご理解ください。



番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
36	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	三重県はいつも外からのテロリストが爆発物を持ち込むようなテロのみを想定している。地域から連続殺傷事件の加害者が出ることを想定していない。日頃見かけないだけの地域住民を不審物扱いする地域では連続殺傷事件の被害者数が激甚化してしまう。SDGsにも即していない。	⑤ (その他)	日頃から、まちに不審物やいつもと違った変化はないかということに、地域の中でそれぞれが意識を向けることが、テロの未然防止につながると考えています。
37	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	「地域の企業や若者(大学生等)等」と二度と書くな。大学生でないのに若者扱いされて好き勝手に利用される人間の身にもなってみろ。絶対に二度と書くな。	⑤ (その他)	高校生から社会人までを含む言葉として、「若者」は一般的に広く認知され、地域の防犯活動の現場でも使われていると考えます。
38	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	なぜ「親子そろって参加しやすいようなイベント等」という文言が出てくる。生涯未婚の激甚化に対する目算がいつも常に必ず甘いのが三重県だ。家族連れイベントなら関係ないなと未婚中高年に思わせるだけだ。	⑤ (その他)	多くの地域では、高齢化に伴う担い手不足が課題で、いかにして防犯活動への地域住民の関心をひくかに頭を悩ませています。 これを解消するため、「親子そろって参加しやすいイベント等」の開催をきっかけに活動の認知度を高めるとともに、子どもと親の防犯活動への関心を高めていくというアイデアがあります。
39	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	この項目は「若者の皆さん」とは呼べない。生徒・学生の皆さんに過ぎない項目である。高齢者に若者扱いされる中高年のことを何だと思っているのだ。三重県から地獄を強いられる道理は無い。皆無である。	⑤ (その他)	ここでいう「若者」には、生徒・学生はもちろん、社会人(若年層)も広く含んでいます。 防犯ボランティア等の高齢化が進む中、若い力やアイデアを必要とする地域が多くあります。
40	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	若者としての目線など要らない。良いと思われるものは若者らしさがあろうがなかろうが提案すると良い。それで若者らしくないから却下するような組織には継続性などありはしないからだ。	⑤ (その他)	オリジナルグッズの作成、SNSの活用、地元企業と連携したイベントなど若者目線や若者が得意な分野を活かしたさまざまな活動が展開されています。 こうした若者の力やアイデアを借りたいという地域の声が多くありますので、若者に対して地域活動等への参加を呼びかけるものです。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
41	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	なぜ事業者までもが子どもや女性、高齢者を守る活動を特筆されねばならないのか。事業者が守るべきは、第一に従業員である。	⑤ (その他)	県内では、業務の一環で、子どもの見守りや一人暮らしの高齢者の安否確認を行う事業者、従業員が地域の見守りに参加しやすくなるよう配慮する事業者など、多くの事業者によって地域の安全安心が支えられています。 また、防犯ボランティアとしてパトロール等を行う事業者も活躍しています。
42	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	新聞を一時停止してもチラシが貯まる。数日程度の外出だと意義を見出しにくい。	⑤ (その他)	長期不在となる場合などに、郵便受けに新聞がたまらないよう配達を一時停止することは、空き巣等を行おうとする者を寄せ付けにくくする効果があると考えます。
43	第4章 1. 地域の防犯力を向上させる	イラストがおかしい。義父が虐待死させる事件も実際にあったが、その場合にも、実母が共犯もしくは共同正犯であったことを決して忘れてはならない。	⑤ (その他)	イラストを使用したのは、読む方が虐待行為自体のイメージをしやすくするためであって、読む方に特定の属性の方による虐待のイメージを抱かせる意図はありません。
44	第4章 2. 子どもを犯罪から守る	見守り活動をしている方の安全も守るため、安全な活動方法の講習会があればと思う。護身術とまではいなくても不審者との間合いの取り方とか、声かけ方法など。(前回のリーダー養成講座のようなのはとても良かった)	③ (参考)	来年度も、地域リーダー養成講座と、地域リーダーの方に対する実践的なワークショップ等を内容としたフォローアップ講座等を開催する予定です。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
45	第4章 2. 子どもを犯罪から守る	「登下校防犯プランの概要」がまとめられたが、地域の目が減少、見守り空白地帯が課題となっている。この対策として、老人クラブとの連携により、ある程度解消され则认为る。	⑤ (その他)	県内では、老人クラブが主体となる防犯ボランティア活動や、地域と老人クラブ等が連携した取組などが展開されています。 こうした活動も地域の見守り強化につながると考えます。
46	第4章 2. 子どもを犯罪から守る	「防犯ブザーでは決して遊ばないよう、徹底しましょう。」が抜けている。防犯ブザーが鳴っても、緊急時かどうかはわかりにくくするようでは意味がない。	③ (参考)	ここでは、「見守られる」対象である子どもではなく、「見守る側」に対して期待するアクションの例を記載しています。 ご指摘のとおり、子どもたちが防犯ブザーを鳴らす際に、効果が発揮できるよう、用途に応じた使用はもちろん、日頃からブザーを鳴らす訓練や、電池の確認なども重要だと考えます。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
47	第4章 2. 子どもを犯罪から守る	三重県は「同じような加害者を絶対に出さない」という思いを欠く。あのような犯罪者が出ることをまず防ぐことから着手せねばならない。犯行に至ってからの対処のみでは足りない。けれども、三重県は縦割り行政のもとで、環境生活部ではないどこかの部局がやることなので関係ありませんと傍観を決め込むつもりであろうことが透けて見えている。	⑤ (その他)	子ども・福祉部において、本年度中に再犯防止にかかる計画を策定する予定で、環境生活部において所管するこのアクションプログラムや「三重県犯罪被害者等支援推進計画(仮称)」に基づく取組等とも必要な情報共有・連携を図っていくこととしています。
48	第4章 3. 女性を犯罪から守る	女性に対する卑劣な犯罪等をゆるさない規範意識の向上につとめなければならないのは、他ならぬ三重県である。	⑤ (その他)	県民のみならず、事業者においても、研修等を通じて職員等の意識を高め、女性に対する卑劣な犯罪等をゆるさない規範意識の向上を図ることは大切だと考えます。
49	第4章 3. 女性を犯罪から守る	女性の護身術は自己防犯力のアップにならない。護身術を過信して、逃げるのではなく戦うという選択肢を選んだ拳銃殺されては意味がない。	⑤ (その他)	県内外で、民間団体や警察等による女性にできる護身術講座が開催されており、女性が万が一の際、身の安全を確保するための方法の1つとして、護身術を紹介しています。 その際には必ず、逃げるのが大切ということが伝えられています。
50	第4章 4. 高齢者を犯罪から守る	自治会、防犯パトロール隊で必要に応じて、高齢者宅を訪問し、1対1での会話、注意喚起が必要と考える。例えば、特殊詐欺やひったくり防止など話し合いを行う。	⑤ (その他)	高齢者宅の訪問やサロン活動等を通じて、高齢者に対する特殊詐欺防止にかかる注意喚起を行うことは効果的だと考えます。
51	第4章 4. 高齢者を犯罪から守る	「・・・詐欺において、実際の現場となりやすい金融機関において」という部分は「おいて」が重複するので、「・・・詐欺の現場となりやすい」に改めてはどうか。	① (反映)	ご指摘のとおり修正します。
52	第4章 5. 近年懸念される犯罪等に対する安全・安心を確保する	自転車の販売等で、登録番号取得(防犯登録)の徹底を追記してはどうか。	① (反映)	販売業者等が自転車の購入者に「防犯登録」を促すことを、「事業者の皆さんに期待するアクションの例」の中に追記します。 (購入者が自転車の防犯登録を行うことについては、既に「県民の皆さんに期待するアクション」に記載しています。)

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
53	第4章 5. 近年懸念される犯罪等に対する安全・安心を確保する	ガソリンスタンドでは、容器にガソリンを入れて販売するとき、免許証ナンバーを記録すべきことを記載してはどうか。	① (反映)	(ガソリン販売事業者等の皆さんは)車への給油ではなく、携行缶などに入れて販売する場合は、購入者の身元や使用目的の確認を行うことを、「事業者の皆さんに期待するアクションの例」の中に追記しました。
54	第4章 5. 近年懸念される犯罪等に対する安全・安心を確保する	三重県は各種テロ未然防止運動が不徹底である。	⑤ (その他)	テロの未然防止に向けて、警察本部では、県民の理解と協力を得つつ、テロ対策パートナーシップをはじめとする官民一体となった各種テロ対策を推進しています。
55	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	幹線道路以外の地域道路での取り締まり強化が必要。また、踏切での一時停止が殆んどされてなく、左右確認がされてない。通学路での携帯会話での走行など危険が潜んでいる。	⑤ (その他)	引き続き、警察等と連携して、交通事故等防止に向けた取組を図っていくこととしています。
56	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	「特にこども……高齢者に対しては、特に思いやりのある……」という部分は、「特に」が重複するので片方削ってはどうか。	① (反映)	ご指摘のとおり修正します。
57	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	止まってくれたドライバーにお礼のしぐさをしたり速足で渡ることも追記してはどうか。	① (反映)	横断歩道を渡る際に、止まってくれたドライバーに対し、「ありがとう」とお礼をしたり、会釈をすることを、「県民の皆さんに期待するアクションの例」の中に追記しました。
58	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	「あおり運転防止」についても追記してはどうか。	① (反映)	「あおり運転」に関して、無理な進路変更や追い越し等はしないことや、もし危険な運転者に追われた場合の対応などについて、「県民の皆さんに期待するアクションの例」の中に追記しました。
59	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	渋滞の隙間から横断するのは「出来る限り」ではなく「絶対に」やめなければならない。	① (反映)	ご指摘のとおり修正します。
60	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	三重県がまず飲酒運転ゼロをめざせ。	② (反映済)	県では「三重県飲酒運転0をめざす条例」に基づき、社会全体での飲酒運転の根絶をめざし取り組んでいくことを記載しています。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
61	第4章 6. 交通事故ゼロ・飲酒運転ゼロをめざす	アクションを県全体に広げたいならば、今からでも遅くは無いから、池袋の御遺族を呼び、御講演賜り、三重県が署名呼びかけを行うと良い。	⑤ (その他)	平成31年4月に東池袋で高齢ドライバーの暴走運転により母子2名が犠牲となった交通死亡事故等を契機に、国を挙げて子どもの安全確保や高齢者の安全運転を支える対策などに迅速に取り組む方針が打ち出されました。 こうした事故を繰り返さないため、ドライバー等の交通安全意識を高め、アクションを広げていきたいと考えています。
62	第5章 県内のアクション～県民・事業者の皆さんの活動紹介～	大学生の有志は「生徒」有志ではなく、「学生」有志である。	① (反映)	ご指摘のとおり修正します。
63	第6章 2. アクションを広げよう	将来に向けてアクションプログラムを永く続けていくためにはまず、「児童・学生への教育」に取り組んでいってはどうか。 小さいうちから防犯や交通安全にかかわる授業を受けたり、学校や身近な地域の安全点検活動をしたりすることで、防犯や交通安全への意識向上や犯罪行為の抑止や交通事故防止、将来の地域活動の担い手確保にもつながっていくと思う。	③ (参考)	県教育委員会では、小学生や教員向けの防犯・交通安全教室等の開催を通じて、子どもの防犯・交通安全意識の向上に向けて取り組んでいます。 今後も、県教育委員会、警察、市町等と連携しながら効果的な子どもの安全確保や意識向上につなげていきたいと考えています。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
64	第6章 2. アクションを広げよう	今や周知をしたいならそれに適したSNSやポータルサイトを使うことは急務で、いかに簡単に情報を取りに行けるのかが大切。 防犯や交通安全に特化したポータルサイトの開設や防犯・交通安全について発信するツイッターやYouTubeで定期的に新しい情報を発信していく試みをしていく必要があると思う。	③ (参考)	現在、ホームページによる防犯・交通安全情報の発信や、交通安全メールマガジン等を実施していますが、SNSを含めた効果的な普及啓発の手法等についても検討していきたいと考えています。 ご意見については、今後の参考とさせていただきます。

番号	該当箇所	意見の概要	対応区分	意見に対する考え方
65	第6章 2. アクションを広げよう	<p>「ゆるい活動」(犬の散歩のついでに活動など)との連携も重要だと思う。</p> <p>県内では学生や若い人がスポーツや趣味、ボランティアなどでグループを作っていて活動をしている事例があるが、こうした活動団体と県や地域の自治体が連携して防犯や交通安全の活動を一緒にできると、活動の周知や若い人への浸透につながると思う。</p>	③ (参考)	<p>県内で、若者団体と市町や警察、自治会等が連携して取り組む事例があります。</p> <p>世代や組織を越えた連携による活動は、非常に波及効果が高いものと考え、県としても必要な協力・連携を行うとともに、他市町への横展開を図っていきたくて考えています。</p> <p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
66	第6章 2. アクションを広げよう	<p>「スポーツ団体」との連携も重要だと思う。</p> <p>県内では、地域で活動するスポーツチームがいくつもあり、それぞれのチームがファンを増やすためにさまざまな活動をしている。防犯・交通安全の活動にスポーツチームが参加することは、協賛企業も含めた活動に期待でき、チームのホームページとの連携による周知効果もあると思う。</p>	③ (参考)	<p>スポーツ団体との具体的な連携事例は確認していませんが、特に地域で活動するスポーツ団体との連携は、非常に波及効果が高いものと考えます。</p> <p>ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p>
67	第6章 2. アクションを広げよう	<p>「海外旅行に行きたい」「好きなアーティストのコンサートに行きたい」「高級料理を食べたい」といった非日常を求めることは無い。それは当たり前の願望とは言えない。三重県は格差社会・貧困社会を甘く見ている。</p>	① (反映)	<p>ご指摘を踏まえ、「当たり前」といった記述を削除するとともに、非日常への変化の例示を修正しました。</p>